



## SIGGRAPH ASIA 2016 でのインタラクティブアート作品 「Luminescent Tentacles」の展示報告

金沢美術工芸大学 美術工芸学部

准教授 中安 翌

本研究報告は、SIGGRAPH ASIA 2016 の Art Gallery セッションにおけるインタラクティブアート作品「Luminescent Tentacles」(図1)の展示に関する報告である。

SIGGRAPH ASIA は、コンピュータグラフィックスとインタラクティブ技術に関するカンファレンスである SIGGRAPH のアジア版として、2008 年からシンガポール、日本(横浜、神戸)、韓国(ソウル)などで開催されている。2016 年の SIGGRAPH ASIA 2016 では、マカオの The Venetian Macao を会場として、12 月 5 日から 12 月 8 日までの 4 日間に渡って開催された。本家の SIGGRAPH 同様、Technical Papers や Computer Animation Festival、Emerging Technologies 等の多くのセッションが行われている。Luminescent Tentacles は、先端技術を利用したアート作品の展示を行う Art Gallery セッションに採択された。

Luminescent Tentacles は、イソギンチャクをモチーフにしたインタラクティブアート作品であり、波間に漂うイソギンチャクの触手のような美しいキネティックアート表現を目指したものである。45 cm<sup>2</sup>の平面上に、直立して 6 方位に柔らかく曲がる独自開発のアクチュエータを 256 個実装している。それぞれのアクチュエータはバイオメタル(形状記憶合金)によって駆動し、作品上にかざした手の動きに合わせて、先端の光とともに柔らかく曲がる。手の動きをトリガーとし、ソフトウェアシンセサイザーから発生する音によって音楽が奏でられる。光と音と動きが連動した幻想的表現を持つ作品である。

Art Gallery セッションでは、3D プリンターを利用した造形作品、CG 流体シミュレーションを利用した山水の墨絵表現の作品、ニューラルネットワークを利用したロボットと人間のコミュニケーションをテーマにした作品等、多種多様な作品が展示さ

れた。会場では、多くの来場者に Luminescent Tentacles を体験してもらうことができただけでなく、他の海外アーティストとも交流を行うことができた。

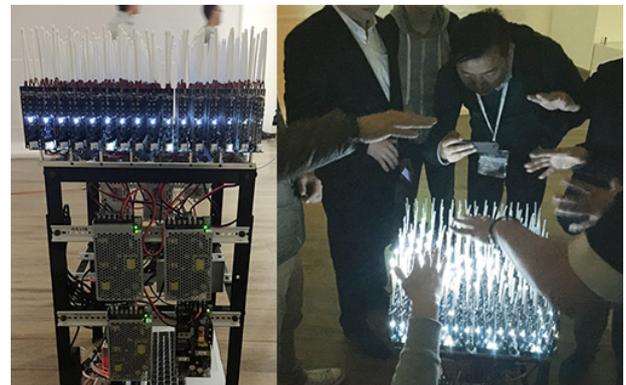


図 1. Luminescent Tentacles の展示風景

また、全てのアーティストによるトークセッションとして Art Gallery Talks が企画され、質疑応答を含めて一人 10 分程度で行われた。私の発表では、発表後も持ち時間を超える質問があり、有意義なディスカッションを行うことができた。



図 2. Art Gallery Talks での風景

最後に、本助成により国際会議での作品展示という貴重な機会を得ることができた。この場を借りて感謝申し上げる。